

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	問1 説明会の内容についてのご感想	問2 伊方発電所1号機の廃止措置についてのご意見	問3 原子力発電及びこれに関連することについてのご意見	問4 その他（何でもどうぞ）
1		了とする。 但、期間と財源については!?～結局、利用・使用者に多くの負担がかからなきよう、求めます。		※電気料金の改訂についての検討はどうなっているのか？ 一般市民の多くは又、事業者を含め、電気料金の事に関する事は、大変、気になる所である。
2		別段ありませんが、今後の地域振興策を考えて下さい。	原子力発電所が廃止になれば、当地域の経済が衰退すると考えられます。 核のゴミ保管場所を当地域内で保管し、地域振興ができないか!! 熟慮して下さい。	
3	原子力規制庁の説明がわかりにくい。	廃止措置の40年を守ること。		
4	単なるセレモニー的な説明に終わったと思う。素人には事前に資料を渡して自分で確認しておいてももらわないと予備知識もなく専門的な質問はできないと思う。 原子力規制庁の丸山さんの説明は本人としては当たり前かも知れないが、規制庁の立場でのみの説明。質問にも回答が噛み合っていなかったと思う。規制庁の立場として回答できるのがここまでの、これ以上の質問には範囲外になるので回	正直、プラントを最初の建設から携ったエンジニアとしては、純粋にまだまだ使用できる（発電して機能的には問題はない）のにもったいないという意見だが、福島事故（私は自然災害というより、人的対応のミスだと思っている）を鑑みて、一般の人からすれば、放射線被ばくや汚染により、住んでいる土地を奪われるというリスクが廃止（廃炉）措置に向かう事はやむをえない考え、方向だと理解も	原発に従事する技師として危惧している事を正直に述べさせて頂く。 福島の事故以来、日本の再稼働を目指す原発は原子力規制庁の厳しい安全基準（規制）をクリアにする為、莫大な費用をかけて安全対策を行ってきたが、それは、私からするとハード面に対する安全確保（訓練等一部は違うかも知れないが）と思える。国のエネルギー政策からすると全体の約20%の電力	

伊方発電所 1 号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	答できないと明確に回答すれば、疑念が持たれなかったと思う。	できる。 最終的に原発 0 方向で国全体が向かうのなら、合わせて廃炉はやむをえないと思う。 廃止措置については、内部の最新知見の計器等、汚染のないものはできるだけ有効に使って、汚染して出せないもののみを長期間かけて処理していくのが望ましいと判断する。	は原子力に依存すると指針だと思うが、ソフト面の安全確保、つまり、原子力という特殊な環境下（放射線下）で厳しい安全基準をクリアできる技師がこのままではいなくなってしまう。例えば、伊方は 3 号機のための稼働ではメンテナンス業の技師集団会社は経済的に成り立たない。そうなれば、廃業に追い込まれ、メンテナンス業者（技師）はいなくなってしまう。ハード面での安全確保は確かに必要だが、安全に確かな技術で運転する技術者、また安全で安心な機能を維持していくメンテナンス技術、技術者の確保、私は日本全体の再稼働原発に必要なメンテナンス業者を 1 つのグループとしてとらえ、育成、確保していく、そのような国策、電力業界全体で取り組む課題として考えて頂きたいと望むのであります。	
5	四国電力、原子力規制庁、愛媛県と説明を聞き、ただ淡々と語る内容の理解には困難があり、こんなものなのかと自負させられた。	昭和 52 年に運転を開始し、40 年間稼働した 1 号機の廃止には、40 年間にかけまた約 407 億円の費用を要し、平成 27 年度までにすでに約 361 億円が積み立てられていることを知る。	原子力発電と共存している現在、第二の福島にならぬよう、ただただ市民の安全と豊かな生活を守ってほしいと強く望み祈る思いである。 稼働しつづけるも廃止にしようと	

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

		しかし使用済燃料や新燃料の再処理事業者・加工事業者への譲渡の理解や内容の明確さに欠けている。	も万一の非常事態の想定は、重要かつ重大であり、市民1人1人が生きる手段が身につけられる様、細かい体制づくりを強く要望する。	
6	原子力規制庁の説明が理解出来なかった。	廃止措置に関しては、当然進めてゆくべきであるが、将来に対する明快な回答(展望)がないまま進むのは少し不安である。	事故が起きた時の補償を明確に示すべき。	
7	原子力規制庁の説明では、説明のスピードが早すぎて、目で追うだけで精一杯でした。 四国電力からの説明は理解できましたが、放射性廃棄物の処分先については、不安に思う。	当然実施すべきことだと思うが、多くの市民は廃止に多額の費用がかかるという事は認識していない。 放射性廃棄物の処分先が現時点で決まっていないことに不安を覚える。	無事故、万全の体制での取り組みが最低条件だと思う。 住民の安心安全に努め、電気料金の値下げをお願いしたい。	
8	規制庁の説明は、進むのが早く専門的な言葉も多くてよく理解できませんでした。	廃炉作業に地元企業が最大限関われるよう配慮願います。 低レベル放射性廃棄物の量が全体の1パーセント未満とはいえ、埋設先が決まっていない状態では住民に不安が残る。早期の決定を望みます。	特にありません	「知らないものは怖い」 人体への影響を含め、放射線に対する正しい知識を、わかりやすく説明していく努力がまだまだ必要ではないでしょうか。 安全性だけを強調するのではなく、広く認められたデータで根拠ある説明、リスクの度合いも含めた説明が必要ではと思います。
9	四電の説明については 20 分をフルに活用して 40 年かけての調査、解体等、分かりやすく丁寧な説明	安全に留意しながら、各段階が予定通り進むよう、又、しっかりとした情報公開をして欲しい。		

	で好感が持てた。又、廃棄物の中での放射能レベル区分について割合を詳細に区分していて、安心感に結びついたと感じた。 原子力規制庁、県の専門部会の報告については説明不足であり各20分間を十分に活用して欲しいと感じた次第です。			
10	進行等、特に問題はなかったと思うが、原子力規制庁の説明が審査基準等の内容が専門的であるにも関わらず聞き取りづらかったため、今後改善をはかってほしい。 廃止に係る上で最も重要なことは、人間や動植物に悪影響を及ぼす放射性固体廃棄物の処理処分についてだと思うが、最終処分地や処分方法等については、処理事業者に引き渡すまでが審査対象とのことであり、その先のことは審査対象ではないという発言については疑問が残る。	東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を受けて以降、原子力という人間が制御できないエネルギーを利用した発電には否定的な立場である。地域住民の安全がやはり第一であり、営業運転開始から40年を経過する1号機の廃止については賛成する。 しかしながら、現在まで、原子力発電所（1号機含む）の設置により立地及び周辺自治体が経済・雇用面で恩恵を受けていた点は評価できる。今後、1号機廃止措置に伴い地域経済が衰退することのないよう、また雇用が失われることのないよう切にお願いしたい。 なお、放射性物質は造れても減らず手だてがなく、時の経過しかその力を弱めることができないと認識している。放射性固体廃棄物の	資源の少ない日本において、原子力は安定して大量の電力を供給できるため魅力的であるが、放射線の厳しい管理が必要で、事故が起きた際に広範囲にわたって人間や動植物に悪影響を及ぼしてしまう点、放射性廃棄物の処理方法が未確立という点を考えれば、今後は原子力ではなく、新しい安全なエネルギー発電に移行していく時期にあると思う。（安定的な電力を供給するにはまだ先かもしれないが。） その際に配慮していただきたいのは、やはり継続して地域経済に寄与していただくことであり、現に働いている人たちが安心して働き続けることができるようお願いしたい。	特になし。

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

		処理処分方法については今後ご教示願いたい。		
11	大変有意義な説明会でした。速やかに廃止措置を実行して頂きたい。	原発の運転期限は40年であり、現在の電力需要・供給から考えても廃炉は当然である。	国による放射能廃棄物最終処分場決定まで伊方発電所内での安全な保管を国・県・四電が責任を持って確実に行ってほしい。	1号機に続き、2号機も廃炉にすべきと考えます。
12	説明については、専門用語の多い特殊な事案であり、もっとゆっくり丁寧な説明をしてほしかった。特に原子力規制庁の方の説明は早口で、聞き取りづらく、分かりにくかった。	廃止については、異論はないが、廃止までの期間が40年と非常に長く、安全性の確保は最優先にお願いしたいが、工期の短縮をお願いしたい。 また、放射性廃棄物の処理について、使用済燃料は再処理業者が、新燃料については加工業者が処理するとなっているが、現時点で受け入れ先が決まっていない中、当分の間、伊方発電所内での一時保管となるが、一時保管がいつまで続くのか、受け入れ先がなければ、延々続くのではないかと実質的な最終処分場になるのではないかと不安である。 また、使用済み燃料は乾式貯蔵施設において一時保管される計画となっていると聞いているが、プールでの保管に比べて安全性についても疑問がある。 その他の低レベルの放射性廃棄物	現在、2号機についての今後の方向性が出ていない中、3号機が稼働しており、今後も使用済燃料は増え続けるし、全国で廃炉に伴う放射性廃棄物も増大する一方であり、一日も早く、最終処分場の早期の確保を国が責任を持ってすべきである。	

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

		についても処理方法、処分先が不透明であり、一時保管であるという確約がほしい。		
13		安全に廃止措置をしていただきたい。	今現在の原子力発電に頼らなければならないのはいたしかたないと思います。ただ私達農家にとって、安心、安全が守られなければ、産業としてやっていけないので、充分に気をつけていただきたい。	
14	廃止措置終了の期間が40年間かかると言われたが、長い年月が流れるその期間が不安。住民最優先でお願いしたい。	住民の安心安全を考えて廃止措置をお願いしたい。		
15	原子力行政の基本的な根本的な問題 1. 再処理の難しい点 2. 長い期間と金が多くかかる点 3. まだ処理方法等が未解決な点 その他原発の問題点の多さに、今更ながら不安を感じた。		再生可能エネルギーへの転換が求められるが、技術的その他の理由により現状では伊方の3基のうちの1基の再稼動と老朽施設の廃炉への方向性は適当ではなかろうかと考える。	再稼動を容認した、過去の経過と責任に於いて今回の説明会に出席する責任を感じて参加しました。事業の責任者としては①再稼動に向かつての事業に参加でき、地元の事業者として貢献できて良かった。 ②生活者として、地場産業のみかん生産者としては、大半が関東圏での販売であり、いわゆる風評被害が心配である。先人の築いてくれた産地を守っていく使命を感じる。
16	四電さんの説明は理解し易かった！「信頼できる」	専門性が高いので解り難い！（規制庁）		

伊方発電所 1 号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	事故のないことを願っています。	規制庁が我々の頼りになるところなので、もっと一般の人が理解できる説明をしていただきたい。		
17	説明の内容が理解できない事があり、感想と言われても、本日の質問にありましたが、40 年も廃炉処理期間がかかる長期間ですね。専門家が下した判断だから。説明を聞いて将来の原発廃炉について問題が多いと思います。	人の安全第一だから廃止は賛成です。 将来の事を考えれば、電気コストの面を見れば、賛成だけど最終処分・処理の事がまだ明確にされていないと思います。		
18	少し難しかった。 イラスト等が入った説明資料がほしい。	高いコストをかけて建設し、高いコストをかけて廃止するので、高い電気を買うことに消費者はならないか。 環境に優しくないのは問題がある。	原子力はコストが高く、危険。環境に優しくないのでは漸次廃止。風力発電等の自然エネルギーに移行すべきと思う。	
19		廃止にあたっては、事故のないよう工事を進めていただきたい。	2 号機、3 号機も早く廃止にしてほしい。 ①万が一過酷な事故が発生すれば住居や生活の場を失う。 ②原発のゴミの処理方法も決まっていない。	クリーンエネルギーでの発電を進めてほしい。 ①風力発電 ②河川での小水力発電 ③太陽光発電（公共施設、工場の屋根は太陽光発電に、個人住宅の太陽光発電には補助を）
20	(1)伊方原子力発電所 1 号炉の廃炉の期間が 40 年ということでしたが、その 40 年間の間、確実に放射能漏れ等に対しての安全対策が保障されるのかどうか、期間が長い	(1)1 号機の廃止措置については、やむを得ないとは思いますが、その期間中の安全措置については、万全を期していただきたい。 (2)廃止措置期間が 40 年というこ	(1)40 年という時間は、実際に廃炉までを確実に見届けるのには、長すぎる時間だと思う。おそらく自分も生きていることはないであろう。となると、その期間中に、安全	特になし。

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	だけに少し心配になりました。 (2)四国電力が説明された解体工事期間中の放射線業務従事者が解体工事中に受ける線量評価の「約1.4人・Sv(10年間)」「6.6μSv」「0.25μSv」などの線量評価の値が、具体的にどの程度の安全性のあるものなのかが、分からなかった。 (3)原子力規制庁の説明は、ただ資料を読んだだけで、もう少しわかりやすく説明していただけると良かった。	とであるが、作業の安全性のために40年時間を延長するということであるならば、その期間を延長することによる地域住民に対しての安全性の保障は、どうなっているのか。 (3)廃止措置については、原子力規制庁も県も、まるで四国電力の計画に対して見切り発車を認めているように感じられた。もし東電の福島原発のような事故が起きた場合には、四電、国、県がどのように責任をとるのか。	に処理が進められているかどうかを、見届ける組織なり期間が必要になってくるのではないかな。 (2)かつて東電福島電発が津波により被災し、放射能漏れを起こした事故は耳に新しいが、これから40年という、南海トラフ地震の発生等も考えられる。それらに対しての防災措置、安全対策等についても十分な考慮が必要ではないか。「想定外」では許せないのではないかな。	
21	四国電力、原子力規制庁、愛媛県ともに、要点を絞った、簡潔、明確な説明であった。 四国電力が作成した「伊方発電所1号機廃止計画書」は、原子力規制庁の示している指針にかなうものであるということ、また、愛媛県も一応了解していることが分かった。	1号機の廃止完了までには、40年、気の遠くなる計画だが、なぜこんなにも時間がかかるのだろうかと思った。 また、使用済燃料の最終的な行先は、現在、不明のようである。今後の科学技術の進歩を待つしかないのだろうか。	今なお福島では、原子炉の廃炉に向け困難な作業が進められているが、今後の日本のエネルギー政策は、極力原子力に頼らない方向に進めるべき時が来ているのではないだろうか。	市長の挨拶にもあったように、本市は原子力発電所にきわめて近い位置にある。絶対に福島の原発近隣市町村のようになってはいけない。今後とも、八幡浜市は、愛媛県と共に、四国電力・伊方原発について、現状を正しく把握し、要求すべきは毅然と要求していくことが求められる。 伊方原発が、雇用、地域の振興に大きく寄与していることは、素直に認めなければならないが、決してなれ合いにならないように努めていきたい。
22	急な来客予定が入り出席できなく	廃止措置は止むを得ないと思いま	種々の観点視点から必要なもので	

伊方発電所 1 号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	誠に申し訳ありませんでした。	す。十分な安全策のもと事故などの決して起きることのないよう進めていただきたいと思います。	はあろうと思われませんが、福島等のことを考察するにつけ、不安が全くないとは言い難く、今後より一層慎重な対応・対策が必要と思われます。	
23	1 号機の廃止措置計画について、四国電力の説明は分かりやすかったが、廃棄物の処理処分について、具体的な処理方法や保管場所について知りたかった。放射能レベルの比較的高いもの（L1）は放射能物質の減衰に 10 万年程度かかるという記事を読んだことがある。処理処分においては不安が残った。	安心安全な廃止措置をお願いします。 廃止措置の進行状況を示してほしい。	運転期間が約 40 年、廃炉に約 40 年、廃炉後も放射能廃棄物は残り続ける。原子力エネルギーと我々の生活について、一人一人がしっかりと考えていかなければならないと思いました。	
24	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
25	県・四電の説明は分かりやすかったが、原子力規制庁の説明は分かりづらかった。	廃止措置は分かったが、捨て場が決定しないことには話しにならない。	徐々に原発を減らして欲しい。	使用済燃料を普段から貯蔵しないよう計画してほしい。
26	知識がない中での出席では、理解が難しい。 安全であると言われれば、そうなのだろうと思うしかない。	特にありません。安全に処理して下さい。	特になし。	原子力規制庁、もっとわかりやすく説明して欲しい。 安心で安全、将来に渡って子供達が暮らせるように努力して下さい。 最終処分施設についても、事故等がない様に選定、計画して欲しい。
27	法律で決めて、法律通り行ったという説明でした。	廃炉については、国内で実績がなく、技術的にも研究段階の部分が	省エネルギーを進め、エネルギーの使用量を圧縮して、原子力発電	原子力利用については、「リスクがある」と言うことがタブーにされ

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	一般の人には「そうですか」としか言いようがありません。 いくつかポイントを挙げて、詳しく説明があれば良いのではないかな。	あると聞きます。 一般的な解体作業と原子炉特有の作業、確立した技術部分と新技術部分等に分けて、わかりやすい説明を今後も行ってもらいたい。 廃止措置中の自然災害への対策も公表すべきと考える。（運転中と同様であったとしても）	を必要としない社会にしていくべき。	ていると感じる。 本来は、客観的なリスクアセスを行い、想定されるリスクに対して、このような対策をしているとの説明がなされるべきと考えます。従って、場合によってはあるリスクについては技術的にパーフェクトでないことや、想定以上のリスクが生じることがある説明もあると考えます。納得がいくかいかないかは別の問題だと思います。
28	1号機の廃止措置に関する経過及び今後の方向性については、今回の説明会にて十分理解出来た。	特にありません。	特にありません。	過疎化が進む八幡浜に於いては、伊方発電所の存続が重要なカギを握っていると思われる。 将来的に2号、3号機もいずれは廃止の方向で進むと思われるが、その時期の八幡浜市が過疎化、高齢化の波をどう受けているのか？不明だが、地域発展の為にも必要なインフラ設備（社会資源）と考える。
29	（途中から参加したため、四電の説明は、直接聞けませんでした。）（規制庁、県のみ聞きました。）規制庁の説明は、言葉もハッキリ聞きとりづらく、早口で、不親切でした。言っていることも、「自分たちが決めた基準に適	廃炉自体には賛成ですが、作業の安全性の確保、中間貯蔵が固定化されるのではないかとという心配と事故が起こった際の責任はどこにあるのか？認可した国はきちんと補償してくれるのか？認可した国は、きちんと補償してくれるの	どんなに安全対策をしても、絶対安全とはならない。もし、過酷事故が起きれば、今までの全てがダメになる。 いつまでもそんなリスクの高い発電とひきかえのお金にすぎるのではなく、次の世代に負の遺産を残さ	本来参加したい人なら誰でも参加できるようにすべきです。市民の傍聴が3人とは少なすぎる。もっと広く周知する努力をしてほしい。市のHPで意見を書きこめるようにしたり、幅広い市民の声を聞くための工夫をしてほしい。

伊方発電所1号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

	合しているので、認可した」とい うばかりで、その基準が守られ れば、どう安全が保証されるか、そ の理由は、これこれです。という ような、納得いく説明になってい なかった。	か？などを明確にしてもらいた い。2号機も廃炉にしてもらいた い。	ないよう今決断するのが、政治（リ ーダー）の責任だ。そのために何を すればいいのか、何ができるのか、 みんなで知恵をしぼるべきだ。	原発反対運動に長く関わってきた 市民団体には知らせ、積極的に意 見を聞き、少しでも心配の種を無 くしていくことは、市の未来にと っても良いことのはず。うるさい 方の声にも応えられる、計画に充 実させていくべきだ。
30	（欠席）			日常生活においてエネルギー問題 は大変必要であると考えておりま すが、万が一過酷な事故がないと も考えられないのではないでしょ うか。特に八幡浜市は地場産業が 第一次産業が主ですので、安全第 一に考え、小さな情報でも開示し てほしいと思います。特に放射線 防護マニュアルについても安全な 診断が必要と思われます。
31	原子力規制庁担当官が早口で分か りにくかった。参加者に充分伝わ ったか不安。			
32	報告でき得るものについては、説 明会において、聞かせて頂き、配 布資料においても確認できるため 現在時点では理解。 今後細部については配布資料にお いてさらに理解を深めたい。	十分な時間（年数）の計画であり、 それに基づき進めて欲しいもので す。 尚、定期的な進捗報告会を希望し ます。（3～5年毎）		
33		この件に関しては、あまり理解し てないのですが、国の保安規定に	原子力発電に関しては、国民生活 にとって必要なこととは考えます	

伊方発電所 1 号機の廃止措置に関する説明会 参加者意見（公表可とされた方のみ。順不同）

		基づいて、保安検査をしていただき、地域住民の安全を確保していただくことを願います。	が、東北大震災のように、災害が発生した時の恐怖はぬぐいきれません。特に伊方原発を抱え、南海トラフ地震が発生したらどうなるかと考えますが、行政、四国電力、地域住民の連帯で災害を防ぐことが出来たらと願います。	
34		・40 年間という長さを短縮する方法はないのか。 ・第 1 期間の 10 年の間に技術者、資格者を何人増加させていく予定なのか。また、その育成に何年くらいかかると見込んでいるのか。 ・総人口が減少した中で、従事者をどのように確保していくと考えているのか（現時点で）。	関係者以外への情報提供、開示、広報等をより多く行ってほしい。	・原発だけに頼らない代替エネルギーの研究開発にもっと力を入れ安全な電力供給を望みます。 ・解体は安全に配慮してあると思うが、万一の事故の責任所在をハッキリ決めておいてほしい。